

東日本大震災における空港の対応状況等

1. 空港の24時間運用

○花巻、山形、福島、仙台の各空港において、以下の期間において24時間運用を実施。(回数は救援機の離着陸回数(花巻は固定翼のみ)。)

花巻空港: 3月13日～3月31日(通常 8:00～19:30): 238回(3月12日～4月24日)

山形空港: 3月12日～4月7日(通常 8:00～19:30): 695回(3月12日～4月11日)

福島空港: 3月11日～4月19日(通常 8:30～20:00): 1592回(3月11日～4月20日)

仙台空港: 3月15日～ (救援機のみ)

2. 仙台空港の復旧

○3月11日 地震発生、津波により空港全体が冠水。

- ・仙台空港ビルは、地元自治体との合意に基づき一時避難所として機能。12日17時現在で1422名の近隣からの避難住民、旅客等を受入れ。

○3月16日 B滑走路を1500mで救難機限定運用開始。

(へりは3月15日から使用可能)

○3月29日 B滑走路3000m使用可能(救難機のみ)。

○4月13日 民航機の就航を再開。

※当初6往復/日(4月13日～20日)、8往復/日(4月21日～28日)

震災前は国内40往復/日、国際25往復/週

3. 臨時便の運航

○各航空会社においては、東北地方への交通アクセスの確保を図るため、臨時便を運航。

- ・青森空港 56便(羽田、伊丹、新千歳)
- ・秋田空港 28便(伊丹、新千歳)
- ・花巻空港 260便(羽田、伊丹、新千歳)
- ・山形空港 866便(羽田、伊丹、中部、新千歳)
- ・仙台空港 112便(羽田、伊丹、新千歳)
- ・福島空港 292便(羽田、伊丹)
- ・茨城空港 28便(羽田、神戸)
- ・新潟空港 12便(中部、新千歳)

合計 1,654便(注) 3月12日～4月21日までの実績合計、片道ベース

4. 成田・羽田における旅客の動向

○福島第一原発の影響等による旅客需要の減少やそれに伴う減便で、震災後(3月11日)から4月18日までのデータとして昨年比で成田の出国者が▲39%、入国者が▲45%の大幅減。羽田も震災前(3月1日～10日)と比べ、出国者が▲28%、入国者で▲29%。※速報値による。

仙台空港の復旧状況について

- 3月11日 地震・津波による被災により、仙台空港は閉鎖

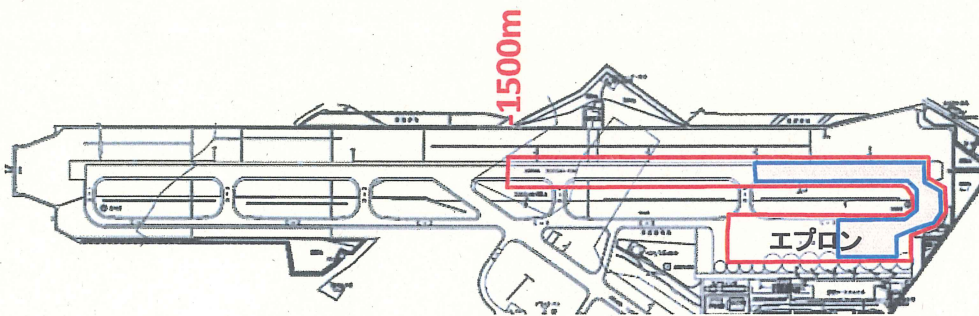


- 3月14日より車両・瓦礫の除去等の応急復旧作業実施

- 3月15日 救急救命・緊急輸送用ヘリ離着陸スペースの運用

※同日、仙台空港と仙台市内を結ぶ道路アクセス開通

- 3月16日 B滑走路1500mの運用(自衛隊等の救援機限定)



3/15 10:07自衛隊ヘリ着陸
(再開後、1号機)



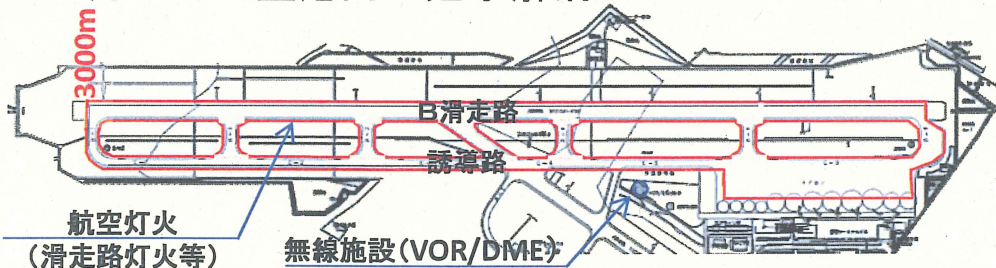
3/16 14:30米軍機C-130着陸
(再開後、固定翼1号機)

3/15 救急救命・緊急輸送用ヘリ離着陸スペース

3/16 B滑走路1500m

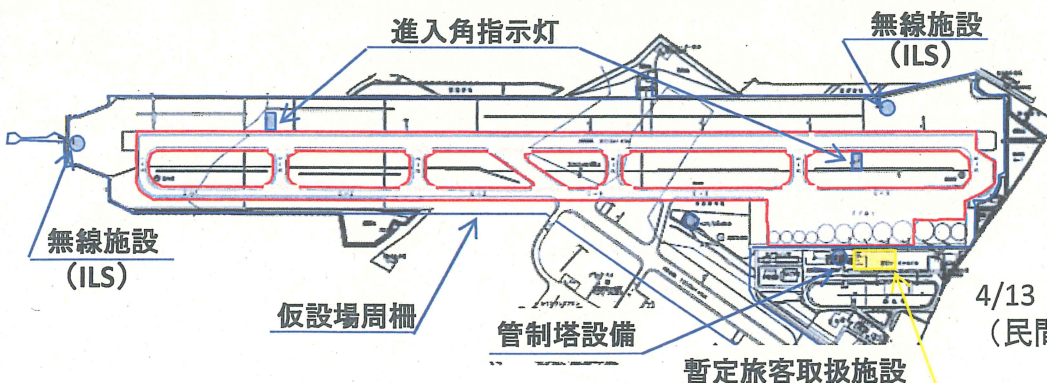
- 3月29日 B滑走路3000mの運用(自衛隊等の救援機限定)

※3月24日 空港内の冠水解消



※3/18~4/3 米軍機による緊急物資輸送 87機

- 4月13日 民航機の就航再開(6便/日)※21日より8便/日



4/13 07:58 JAL(B737-800)着陸
(民間旅客機就航再開1号機)

